新座・中学生自殺

# 「追いつめていない」

## 教育長 指導の妥当性示す

新座市立中学二年の男子生徒（当時一三）の自殺をめぐる問題が十四日、市議会で取り上げられ、白倉正穂教育長は男子生徒が自殺前にあめを食べて教師に指導を受けていたことについて、「指導そのもののあり方は問題ない」「生徒を追いつめていくことはなかった」と、学校での指導に問題はないとの考えを示した。

（長坂厚子記者）（共産）

が、「思春期の多感な時に、まじめな生徒に適切（な指導）だったのか」「お菓子を食べたぐらいで行き過ぎた指導で、追いつめたのではないか」「規則を破った生徒に、別の生徒の名前を聞き出すやり方は人権を無視した指導ではないか」などと質問した。

教育長は九日二十九日放課後、死亡した生徒を含む生徒二十一人に対する五教諭の指導内容について説明した上で、「規則を破って黙っている生徒を放っておくと見つからなければいいというゆえも出てくるので、事実を正確に把握する必要があった」「強制的に言わせたわけではない」と述べた。

傍聴した生徒の父親（四）は「教育長は強制はなかったというが、生徒がそう感じていたという現実が欠けていると思う」と話している。